医業経営の現場から

file127　中国・四国地区

『幸せな人生のお手伝い』を合言葉にスタッフ一丸で

駆け込み寺の役割は「まず聞くこと」

「診療所には困った時に駆け込み寺のように行くイメージがあり、医学部に入る前から、かかりつけ医、プライマリケア医のような医師を目指していました」と語るのは、2018年11月に開業した武本クリニックの武本祐理事長・院長。33歳という若さでの開業から6年余り、院長の温かい人柄と丁寧な診療は地域住民からの信頼を着実に集めている。

日々の診療で最も大切にしているのは患者とのコミュニケーションだ。「患者さんの話を丁寧に聞くことを最も大事にし、疾患だけでなく、その人が抱える問題に真摯に向き合う姿勢を大切にしている」という。この「まず聞く」という姿勢は、患者だけでなく、スタッフや業者など、クリニックに関わるすべての人に対してであり、コミュニケーションを円滑なクリニック運営の基盤と捉えている証左だ。

開業して間もなく、コロナ禍という未曽有の事態に直面したが、「若くして開業したので、ある程度柔軟に動ける部分は正直ありました。歴史も浅いので、世の中の流れや、この地域で求められる診療所の役割、たとえばコロナに関する各種検査・診療にも対応しやすかった」と当時を振り返る。積極的にコロナ診療に対応したことが、駆け込み寺として地域住民からの信頼を得るきっかけにもなった。

将来を見据えた経営

医療制度改革や人口減少といった社会の変化に危機感を抱きながらも、前向きな姿勢は変わらない。「公定価格の診療報酬が大きく上がることは考えにくいので、保険診療での収入を上げるには受診回数を増やすか患者数を増やすことが必要です。受診回数に関しては、患者さんの選択による部分も大きいので、増患はどうしても必要です。ただ、この地域の人口減も考慮すると、新規患者の獲得と同時に、患者満足度を高め、リピーターとなってもらうこと、紹介患者を増やすことが重要になるので、今まで以上に丁寧な診療、そして急性期疾患であれば早い段階で治っていただくことが大切になると思います」と、安定したクリニック運営のために先を見据える。

人件費や医療材料費の高騰に関しても、「賃上げの流れもあるので、適正な報酬をスタッフに払わなくてはならないし、4月から医療材料が値上がりしていて固定費も膨らんできています。すると収入を維持しても収

医療法人陽武会 武本クリニック　概要

■所在地　鳥取県米子市西福原4丁目9-52
■理事長・院長　武本 祐（ゆう）
■診療科　内科、呼吸器内科、アレルギー科、胃腸内科

スタッフの皆さんと。提供する医療の質で満足いただくことはもちろん、「快適に過ごせた」といったプラスの気持ちでお帰りいただくことを目指しているという

病気が人生の主役であってはいけないという思いから、「幸せな人生のお手伝い」をクリニックの合言葉にしていると話す

益は減ってしまうので、従来の経営のままでは将来的に苦しくなる」と話す。積極的に宣伝はしていないが、患者のニーズがあれば美容や脱毛などの自由診療を一部行いながら、24時間ネット受付など業務効率化にも取り組む。また、経営の安定化や自身の負担軽減につなげることも視野に、非常勤医師の活用なども検討中だ。

地域医療の集約化見越し外部との連携も

経営面の課題については、医業経営コンサルタントとの月例面談や月報を通じて経営状況を把握できることが大きな支えとなっている。専門知識を持つ相談相手がいることは大きなメリットとのこと。

「私にとって経営コンサルタントはかかりつけ医のような存在。医療環境が大きく変化する中で、自分の解釈の答え合わせや、他の医療機関の事例なども教えてもらえるのはとてもありがたい」と、気軽に相談できる関係性を築けていることに感謝している。他業種の動向も把握するよう努めていて、医師であると同時に経営者としての視点を忘れず、クリニックの持続的な運営とスタッフの雇用を守るために、新たな取り組みへの関心を持ち続けている。

地域の医療機関との連携にも積極的だ。「近隣の4病院が連携して、診療予約や紹介のシステムを統一しようかといった話が出ています。総合病院も含めた地域医療の集約化が3年から5年先くらいで起こりそうなので、そこに合わせていかなければ」と、地域連携の一角を占めることにも意欲を見せる。

患者の健康と安心に貢献する覚悟

最後に、武本院長は自身の経営理念を語った。「接した人に喜んでいただくこと。病気が人生の主役であってはいけないという思いから、『幸せな人生のお手伝い』をクリニックの合言葉にしています。患者さん1人ひとりの時間と対価に見合うサービスを提供することを基本に、スタッフと日々の診療に取り組んでいます」。開業時、周囲からは開業が早すぎるとの声もあったが、6年が経過し、変化の波に揉まれながらも、院長の患者を思う気持ちと地域医療への熱意は変わらない。

「地方の開業医の高齢化による廃業も問題です。自分の年齢層の医師は地域医療で重要な役割を担う可能性が高いと思うので、惑いながらも前に進まんといけんっすね」。不惑を迎える院長の言葉には、地域医療に貢献する覚悟が込められている。武本クリニックは、これからも地域の「駆け込み寺」として、患者の健康と安心を支え続けていく。

理事長・院長　武本 祐（ゆう） 氏

2011年高知大学医学部卒業後、同年4月鳥取県立中央病院にて初期臨床研修開始。2013年より鳥取大学医学部附属病院呼吸器膠原病内科医員として勤務。その後、松江赤十字病院呼吸器内科、山陰労災病院呼吸器・感染症内科医師を経て、2018年11月武本クリニックを開業。
日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本医師会認定産業医。そのほか、臨床研修指導医、ICLS（日本救急医学会の蘇生教育コース）およびJMECC（内科医向け救急研修プログラム）修了、日本緩和医療学会緩和ケア研修会修了。

待合スペース：自然光が降り注ぐ落ち着きのある木目調

電気自動車を法人所有し、V2H（Vehicle to Home）システムを導入。停電時でもクリニックへ電力を供給し、電子カルテなどを稼働可能。太陽光発電、断水時でも使用できるように雨水タンクを備えたトイレなども設置。東日本大震災の年に医師になった院長は、「有事でも診療が継続できる態勢」を設計段階から考慮して医院を建てた